



慶應義塾大学ビジネス・スクール

愛鋼工業株式会社 (B)

工場閉鎖の決断に躊躇

5

商社筋からの支援を得て愛鋼工業の経営企画室坂爪氏は、経営再建計画を取り纏めた。

それは、概略以下の如き案であった。

10

- (1) アルミ関連新規事業の縮小
- (2) 九州工場閉鎖
- (3) 本社部門の管理職合理化
- (4) 未払い退職金と未払い賃金の支払い

15

本計画が取締役会で審議されたのは平成 10 年の 9 月であった。

しかし実は経営企画室長は平成 10 年 6 月の株主総会を前提に再建計画を練っていたが、会社経営は混乱を来たし、月次の資金繰りは厳しさを増し、社長もその資金調達に奔走するという事態に突入するに至って、再建計画を定時株主総会で上程することを諦めていた。

さて、この 9 月の役員会では、経営危機に関する意見の一致はみたものの、具体的案の審議はされず、役員間での葛藤だけが増大する結果になった。たとえば、高海会長は月社長に対して「経営責任を全うして退任すべきだ」という発言がでたり、「産業基盤整備基金の認可を得た経緯から役所に対して顔向けができないではないか」、「第一アルミ事業の縮小と言っても供給責

20

本ケースは「経営再建論」の講座のために作成した。社名や氏名は仮称である。現在破産手続き中につき複写を禁じる。（許斐義信）

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 許斐義信 (2010 年作成)